デジタルビデオレコーダー

SHR-3090/SHR-3160

操作用簡易マニュアル

目　次

1. 各部の名称とはたらき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2. 主な運用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
   ・ライブ監視
   ・映像の記録
   ・記録映像の再生
3. 記録されている映像の検索方法・・・・・・・・・・・・・・・5
4. ＵＳＢ端子を利用しての外部記憶媒体へのデータ保存・・・・8
5. トラブルシューティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

ホッコー株式会社

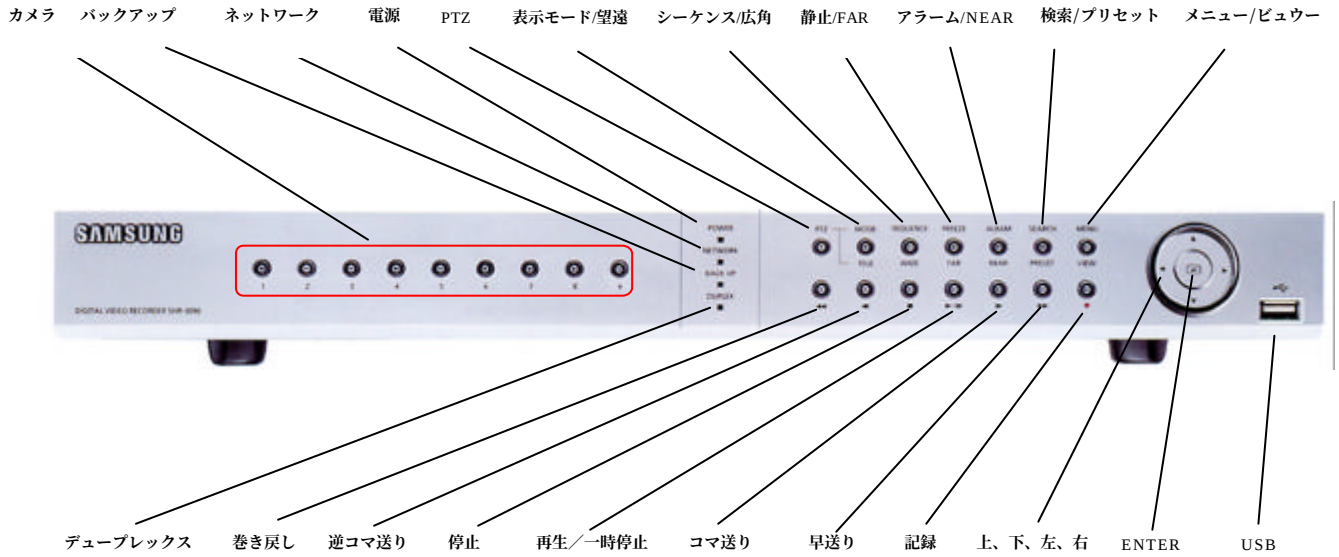
〒460-0006

名古屋市中区葵一丁目 27 番 24 号

TEL(052)935-7165

FAX(052)935-7035

1. 各部の名称とはたらき（写真は SHR-3090）



カメラ：　押した番号のカメラの映像を全画面で表示。パスワードを入力する際は入力用ボタン。

バックアップ：　USB 端子を使って、記録された映像を外部記憶媒体へバックアップ中に点灯。

ネットワーク：　LAN またはインターネット経由でネットワーク運用されている際に点灯。

電源：　電源が ON の時点灯。

PTZ：　スピードドームカメラなど遠隔操作が可能なカメラをコントロールする際の PTZ モードに切替。

表示モード／望遠：　ボタンを押すごとに１６分割（SHR-3160）、９分割、４分割、画面内画面から表示モードを切替。PTZ モードでは望遠ボタン。

シーケンス／広角：　一定時間ごとに表示画面を切替。PTZ モードでは広角ボタン。

静止／FAR：　表示されているライブ映像を静止。PTZ モードではフォーカス調整の FAR ボタン。

アラーム／NEAR：　アラーム入力があった際に出力信号をリセット。（アラームブザーの停止など）アラーム状態を除くライブの監視モード状態の時にイベントの履歴を表示（要ユーザーパスワード）。PTZ モードではフォーカス調整の NEAR ボタン。

検索／プリセット：　検索メニューを表示。再度押すと検索メニューを終了。（要ユーザーパスワード）PTZ モードではプリセットを保存。

メニュー／ビュー：　簡易設定（QUICK SETUP）画面またはメニュー画面を表示。（要管理者パスワード）再度押すとメニューを終了。PTZ モードではプリセット画面を記憶。

デュープレックス：　記録しながら再生が可能なデュープレックスモードで運用中に点灯。

巻き戻し：　映像を巻き戻し。ボタンを押すたびに巻き戻しスピードを３段階で切替。

逆コマ送り：　映像が一時停止の時のみ機能。一度押すと映像を１コマ逆再生方向にコマ送り。

停止：　再生または一時停止中に押すとライブ映像に戻る。

再生／一時停止：　映像を再生。再生中に押すと一時停止。

コマ送り：　映像が一時停止の時のみ機能。一度押すと映像を１コマ再生方向にコマ送り。

早送り：　映像を巻き戻し。ボタンを押すたびに早送りスピードを３段階で切替。（ライブ監視モードから早送りに移行するには要パスワード）

記録：　押すと最高画質の最大スピードで全てのカメラの映像を記録。タイムラプスまたはイベント記録スケジュールが設定されていなくてもただちに記録を開始。このボタンを押しての記録中は画面上に赤いマーク（●）とエクスクラメーションマーク（！）を表示。

上、下、左、右：　メニュー内での移動等で使用。PTZ モードではパン（左右方向）およびチルト（上下方向）の操作ボタン。

ENTER：　メニュー内での項目の選択または選択した項目の決定ボタン

USB：　バックアップ用 USB 記憶媒体接続端子

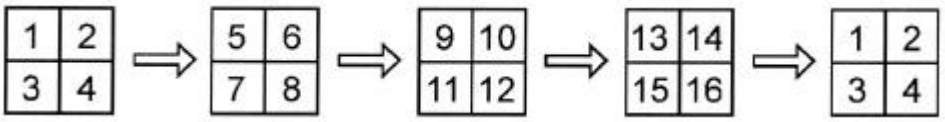
2. 主な運用方法

・ライブ監視

16 分割画面、9 分割画面、4 分割画面、画面内画面など、監視する画面表示を切り替えるには「表示モード／望遠」ボタンを押して下さい。

シーケンシャル表示（映像を一定時間ごとに自動的に切替）にするには「シーケンス／広角」ボタンを押して下さい。他の表示モードを選択するか、再度「シーケンス／広角」ボタンを押すとシーケンシャル表示を終了します。

また、多画面表示の時に「左、右」ボタンを押すと、１つ前の画面または次の画面に移行します。例えば４分割表示の時に「右」ボタンを押すと、次のように表示画面が切り替わります。



・映像の記録

タイムラプスあるいはイベント記録スケジュールをあらかじめ設定しておくと、設定に応じたスケジュールやイベントで記録が行なわれます。タイムラプス／イベント記録スケジュールの設定方法については機器の取扱説明書（P.31～）をご覧下さい。

ただし、本機前面にある「記録」ボタンを押すと、設定の有無・設定内容に関わらず、ただちに最高画質、最高スピードで全てのカメラの記録を行ないます。

・記録映像の再生

初めて「再生／一時停止」ボタンを押すと、最も新しい映像を再生し、その後は「再生／一時停止」ボタンを押すと、最後に呼び出された映像から再生を始めます。

再生を終了するには「停止」ボタンを押して下さい。

注）再生中、他の多画面表示やどれか１つのカメラの映像を単画面表示で見たい場合は、一度「再生／一時停止」ボタンを押して再生を一時停止し、「表示モード／望遠」ボタンを押して表示モードを切り替えるか該当する「カメラ」ボタンを押して単画面表示に切り替えてから、再度「再生／一時停止」ボタンを押して再生して下さい。

3. 記録されている映像の検索方法

検索を行なうにはまず「検索／プリセット」ボタンを押して下さい。検索メニューが表示されたら、「上、下」ボタンを使ってご希望の検索方法を選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。

Go to the First・・・・・・　記録されている番最初の映像を表示する
Go to the Last・・・・・・　記録されている最後の映像を表示する
Date/Time Search...・・・　日付および時刻を指定して表示する
Calendar Search...・・・　カレンダーを利用して表示する
Event Seach...・・・・・・　イベント履歴からイベントを指定して表示する

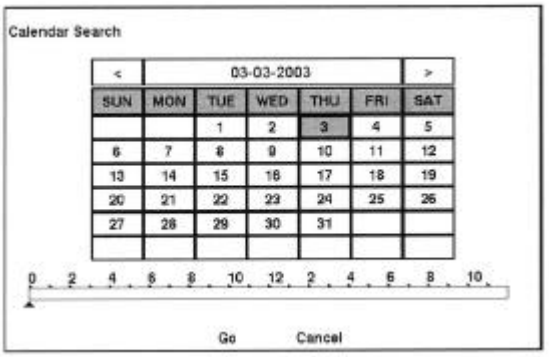
①日付および時刻を指定して表示する

「上、下、左、右」ボタンを使ってカーソルを日付に移動し、「Enter」ボタンを押して下さい。「左、右」ボタンを使って「年」、「月」、「日」の項目をそれぞれ選択して下さい。次に「上、下」ボタンを使って検索したい日付に値を変更し、「Enter」ボタンを押して下さい。
同様に「上、下」ボタンを使ってカーソルを時刻に移動し、「Enter」ボタンを押して下さい。「左、右」ボタンを使って「時」、「分」、「秒」の項目をそれぞれ選択して下さい。次に「上、下」ボタンを使って検索したい時刻に値を変更し、「Enter」ボタンを押して下さい。

日付および時刻を設定したら OK を選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。選択された日付および時刻が表示されます。
注）選択された時刻に映像が記録されていない時は画面には何も表示されません。

映像が表示されたら「再生／一時停止」、「巻き戻し」、「早送り」、「逆コマ送り」、「コマ送り」ボタンを使って周辺の映像を検証できます。

②カレンダーを利用して表示する



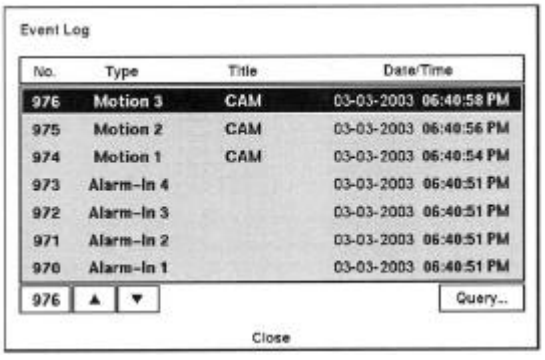
映像が記録されている日が白色の数字でカレンダーに表示されます。「上、下、左、右」ボタンを使って希望の日を反転表示させ、「Enter」ボタンを押して下さい。

タイムバーがカレンダーの下に表示されます。映像が記録されている時間が反転します。
「上、下」ボタンを使ってタイムバーを反転表示させ、「左、右」ボタンを使って時間を選択して下さい。

注）タイムバーは１時間ごとに区切られています。もしその時間帯が反転していたらその間に映像が記録されたことを表わしています。ただし、その時間帯全ての映像が記録されているということではありません。

検索したい日付および時刻を設定したら、Goを選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。選択した日付および時刻が表示されます。「再生／停止」、「巻き戻し」、「早送り」、「逆コマ送り」および「コマ送り」ボタンを使って周辺の映像を検証できます。

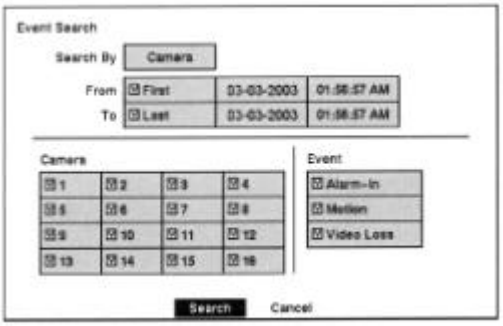
③イベント履歴からイベントを指定して表示する



本機ではアラーム入力ポートが動作状態になる度、履歴を保持します。イベント検索画面にはその一覧が表示されます。「上、下」ボタンを使って見たい映像のイベントを選択して下さい。

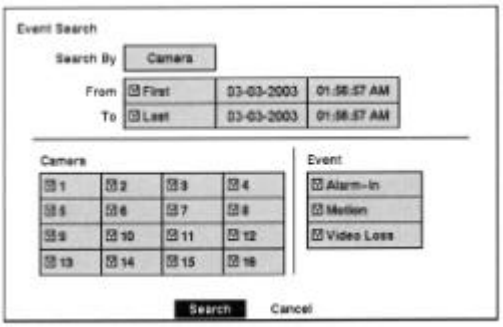
Enter ボタンを押すとイベント画面が起動し、最初の映像が表示されます。「再生／一時停止」ボタンを押すとイベント部分の映像の再生を始めます。「停止」ボタンを押すと、ライブ監視モードに戻ります。「検索／プリセット」ボタンを押すとイベントログに戻ります。

Query... を選択して新しい検索条件を設定することにより、イベント検索を絞り込む事ができます。

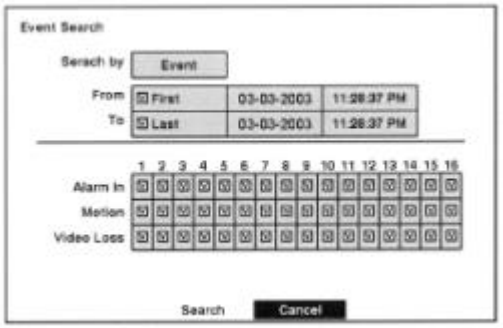


「上、下」ボタンを使って Search by の項目を選択し、「Enter」ボタンを押して Camera と Event を切り替えて下さい。記録されたはじめから終わりまでの映像を検索できます。また開始および終了の日付・時刻を設定できます。

Search by Camera を選択する場合は検索対象のカメラとイベントオプションを選択して下さい。

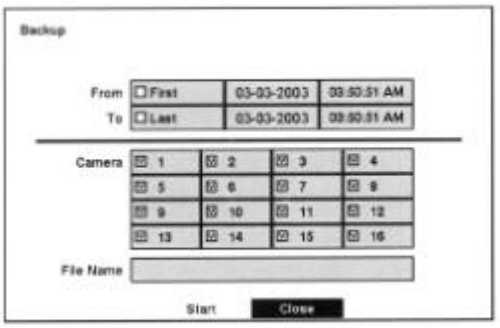


Search by Event を選択する場合は各機器のイベントオプションを選択して下さい。



ご希望の検索状況を設定したら、「上、下」ボタンを使って Search の項目を選択し、「Enter」ボタンを押してイベントログ画面に検索結果を表示します。Cancel を選択すると変更を保存せずに画面を終了します。

4. USB 端子を利用しての外部記憶媒体へのデータ保存



外付け USB-IDE ハードディスクへ映像を保存することが可能です。保存された映像はマイクロソフト Windows98、ME、2000 を搭載したパソコンで見ることが可能です。外付けハードディスクを使ってデータを保存するには機器取扱説明書の「Appendix A　USB ハードディスクドライブの準備」をご覧下さい。

警告：　映像を保存している作業中は、USB ケーブル、電源を外付けハードディスクから抜かないで下さい。作業中に電源が遮断されたり、USB ケーブルが抜けたりすると本機が正常に作動しなかったり、外付けハードディスクが破損することがあります。また続けてデータ保存作業を行なおうとしてもエラーメッセージが表示されるため、いったん本機の電源を切り、再起動する必要があります。USB-IDE ハードディスクのシステムプログラムが破損すると、エラーメッセージは消えません。本機の再起動後もバックアップを準備している間に自動的に再スタートしてしまします。こうなるとリカバリープログラムを使ってファイルシステムをリカバーするか、ハードディスクをリフォーマットしなければなりません。

記録された映像は、はじめから終わりまで保存することも、保存するデータの記録開始および終了日付・時刻を設定することもできます。また映像を保存するカメラを選択することもできます。

File Name の項目を選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。キーボードが画面に表示されます。保存する映像にファイル名をつけ、Close を選択して下さい。自動的にカメラ番号（例えば“ 01 ”）と“ .exe ”拡張子がファイル名に追加されます。専用のフォルダにファイルを保存したい場合は、“ ／ ”に続けてフォルダ名を入力して下さい。
例 :“ フォルダ／ファイル名 ”

映像にファイル名をつけたら、Start を選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。

本機に外付けハードディスクの容量および当該バックアップファイルのサイズが表示され
保存作業を続けるか確認をもとめられます。

注）2GB 以上のファイルをバックアップしないで下さい。

保存作業中は、まずタイトルバーに「Preparing backup」と表示され、続いて進行状況を表示します。保存作業が終了するとタイトルバーに「Back up is completed」と表示されます。

Cancel を選択し、「Enter」ボタンを押すといつでも保存作業を終了できます。

本機が保存作業中も、他の機能を使用することができます。その際は「Close」を選択し、「Enter」ボタンを押して下さい。進行状況を確認するためにいつでも Backup 画面に戻ることができます。

保存した映像を確認するには機器取扱説明書の「Appendix B　バックアップ映像を見る」をご覧下さい。

注）音声記録はバックアップできません。

注）本機に接続された外部 SCSI 機器の電源が On の時には USB バックアップは割り込み禁止の状態となります。

5. トラブルシューティング

問題	確認事項
電源が入らない	・電源ケーブルの接続を確認して下さい。 ・電源コンセントに電気が来ているか確認して下さい。
ライブ映像が映らない	・カメラの映像ケーブルおよび接続を確認して下さい。 ・モニターの映像ケーブルおよび接続を確認して下さい。 ・カメラに電源が供給されているか確認して下さい。 ・カメラレンズの設定を確認して下さい。
ライブ映像が明るすぎる	ケーブルが“Loop”に接続されている場合は、適切な終端機器に接続されているか確認して下さい。
記録が停止してしまっている	ハードディスクの容量が一杯になっている時は、映像を削除するか本機を上書きモードに設定する必要があります。
再生中、表示画面を他の表示画面に切り替えることができない	一度再生を一時停止し、表示画面を切り替えてから、再度再生して下さい。
設定されている現在の日付・時刻より後の最後に記録された映像の日付・時刻の状態で、エラーメッセージが表示される	本機は最後に記録された日付・時刻に従って自動的に日付・時刻をリセットします。もしこの日付・時刻が正しくない場合は日付・時刻を本書の「日付・時刻の設定」を参考に、リセットして下さい。 もし正しい日付・時刻が最後に記録された映像の日付・時刻より前の場合には、日付・時刻をリセットすると、それらの映像が失われます。

031208